

日本フンボルト協会
2022年度年次総会

2022年6月11日(土)

Zoomによるオンライン開催

時間	プログラム
14:00 - 14:50	<p>==日本フンボルト協会 2022年度会員総会==</p> <p>理事長挨拶</p> <p>① 2021年度の活動報告 (資料1)</p> <p>② 2022年度の活動方針 (資料2)</p> <p>③ 2021年度の決算報告・監査報告 (資料3-1, 3-2)</p> <p>④ 2022年度の予算案 (資料4)</p> <p>⑤ 2022年度日独共同研究奨学金(採択結果等)について (資料5)</p> <p>⑥ 奨学金基金と財政安定化基金の会計状況について (資料6)</p> <p>⑦ その他</p>
15:00 - 16:00	<p>==講演会==</p> <p>演者：Dr. Clemens von Goetze氏(駐日ドイツ連邦共和国大使)</p> <p>題目：„Aktuelle Perspektiven der deutsch-japanischen Zusammenarbeit“</p> <p>「日独協力関係の現状と展望について」 (逐次通訳)</p>

(16:00 プログラム終了予定)

主催：日本フンボルト協会

2021 年度活動報告

2022.06.11

1. 2021 年度年次総会について

- ・2021 年度総会を、Zoom によるオンライン総会というかたちで開催した。
常務理事会・理事会合同理事会（12 時～12 時 50 分）の後、会員総会（13 時～13 時 50 分）が行われた。終了後、Lepel 駐日大使（当時）の講演が行われ、参加者は 84 名であった。Lepel 前大使の講演については YouTube に録画を掲載中 (<https://youtu.be/7ybXlnG3pes>)。

2. 協会運営の諸会議について

- ・常務理事会を 2021 年 6 月 12 日（土）、8 月 28 日（土）、12 月 18 日（土）、2022 年 3 月 26 日（土）に、何れも Zoom 会議で実施した。

3. ドイツ研究留学説明会の開催

- ・コロナ禍の状況のもと、ドイツ・フンボルト財団の研究奨学生選考は通常通り行われていることから、2022 年 1 月 8 日（土）、日本フンボルト協会主催のドイツ研究留学説明会が Zoom 形式で開催され、90 名の参加者があった。当日は、全体説明および各領域の分科会、またオンライン形式による利点を生かし、ドイツ滞在の研究者による現地の研究状況など有益な情報が寄せられ、活発な情報交換がなされた。なお、全体説明会のビデオ視聴の希望が寄せられ、この件については検討する。

4. 日独学術情報発信について

- ・日本フンボルト協会主催・共催の Zoom 討論会を以下の要領で開催し、ドイツ在住の講演者を含め、毎回多くの参加者があり、活発な意見交換がなされた。

- ◎ 京都大学大学院法学研究科附属法政策共同研究センター主宰、
ドイツ・フンボルト財団、日本フンボルト協会後援
日時：2021 年 10 月 23 日（土）14 時 30 分～18 時 参加者 60 名

日独公法学セミナー「新型コロナ対策の日独喫比較」

登壇者：高橋大作 氏（在オーストリア日本大使館）
横田明美 氏（千葉大学）、山田哲史 氏（岡山大学）

- ◎ Covid-19 シリーズ第 4 回 日本フンボルト協会主催
日時：2021 年 11 月 28 日（日）14 時～17 時 参加者 29 人

法学シンポジウム「コロナと人権」 (YouTube に掲載 https://youtu.be/66VM_Yx807o)

登壇者：毛利 透 氏（京都大学）、高田倫子 氏（大阪市立大学）
内田博文 氏（九州大学名誉教授）

- ◎ Covid-19 シリーズ第 5 回 日本フンボルト協会主催
日時：2022 年 1 月 29 日（土）14 時～16 時 30 分 参加者 50 人

「日本の Covid-19 対応の問題点—医学と疫学行政の観点から—」

(YouTube に掲載 <https://youtu.be/hsUaxeFMP3Y>)

登壇者：児玉龍彦 氏（東京大学先端研 がん・代謝プロジェクトリ・ダ・）
末松 誠 氏（慶応大学医学部教授・日本医療研究開発機構初代理事長）

- ◎ Covid-19 シリーズ第 6 回 日本フンボルト協会主催
日時：2022 年 4 月 16 日（土）14 時～16 時 参加者：74 名

「文化の危機への応答 —3つの時代(大戦、東西、コロナ)のなかに聴く芸術の声—」

(YouTube に掲載 <https://youtu.be/Ca0EFNMxyG4>)

登壇者：岡田暁生 氏（京都大学）、貫 成人 氏（専修大学）

3

5. 支部活動について

- ・新型コロナウイルス感染が全国的に拡大する中、各支部活動も中断を余儀なくされているが、各支部ともリモート形式で幹事会、総会、Zoomによる講演会などを精力的に開催し、支部活動の活性化に努めた。以下がZoomで開催された講演会です。

○北海道支部 2022年3月24日(木) 17:00~18:00

『ドイツで過ごした博士課程~2021年ノーベル化学賞受賞研究室からの風景』

講師: 辻 信弥 氏 (北海道大学 化学反応創成研究拠点)

○東北支部 2021年11月6日(土) 14:30 - 15:30

『ここまでわかったパーキンソン病—診療・研究の最前線』

講師: 長谷川隆文 会員 (東北大学 大学院医学系研究科)

○関東甲信越支部 2022年3月19日(土) 14:00~15:30

『ナチス絵画をめぐる』 (YouTubeに掲載 <https://youtu.be/WMos42e-RnE>)

講師: 前田 良三 会員 (立教大学名誉教授)

○中部支部 2022年3月12日(土) 10:00~12:00

『ゲオルク・イエリネックと三人の日本人留学生: 美濃部達吉・上杉慎吉・吉野作造
にとってのハイデルベルク』 (YouTubeに掲載 <https://youtu.be/rigmMRpxf6s>)

講師: 今野 元 会員 (愛知県立大学)

○関西支部 2022年3月6日(日) 15:00~16:00

『肺がん治療の最前線』

講師: 井上匡美 会員 (京都府立大学呼吸器外科)

○九州支部 2022年1月28日(金) 18:00~18:45

『日本家族法の特徴——フランス、ドイツとの比較から』

講師: 遠藤 歩 会員 (九州大学 大学院法学研究院)

6. 第3回日独共同研究奨学金

- ・2021年度の日独共同研究奨学金への応募6件(理系4件、文系2件)について、選考委員会で厳正・公平に審査し、下記の2件の助成候補研究(理系1件、文系1件)が、常務理事会(同奨学金実施委員会)に提案され承認された。その後、2021年度年次総会で報告された。

1) 課題: 『宇宙 X 線望遠鏡 eROSITA と XRISM による銀河団ガスと活動銀河核の相互作用の研究』

助成対象者: Angie Veronica, MSc in Astrophysics, PhD Doktorandin an dem Argelander-Institut für Astronomie, Universität Bonn
(申請者: 太田 直美 会員 (奈良女子大学理学部、宇宙物理学))

2) 課題: 『後期青銅器時代~鉄器時代(紀元前 1500~600 年頃)のテル・レヘシュの石製品研究 — イスラエル北部の石製品産業の文脈に照らして』

助成対象者: Andrea Squitieri, Wissenschaftlicher Mitarbeiter,
Ludwig-Maximilian Universität München, Historisches Seminar
(申請者: 長谷川 修一 会員 (立教大学文学部、西アジア考古学))

- ・2022年度、第4回日独共同研究奨学金の募集を実施し、4件(理系3件、文系1件)の申請があり、選考委員会で審査が行われた。

7. 協会の財政安定化に向けた方策

- ・フンボルト財団からのデータに基づき、シーボルト賞など、日独学術交流に関する各賞受賞者にも、本協会への入会を促した結果、28名が会員登録を行った。

8. 「日本フンボルト協会ニューズレター」(Nr. 9 2021年9月)を刊行した。

以上

2022 年度活動方針

2022.06.11

1. 2023 年度年次総会について
 - ・対面方式での開催を検討していくが、コロナ禍の収束など諸般の状況を注視し、開催時期、開催場所等については、引き続き常務理事会で検討していく。
2. 留学説明会について
 - ・ドイツ・フンボルト財団による奨学金審査が通常通り行われており、本協会としてもドイツ留学説明会を、2022 年秋頃を目途に行う。
 - ・2023 年度年次総会が対面式で実施可能である場合には、従来通り、総会当日に開催することも視野に入れて検討する。
3. 学術情報発信について
 - ・日本フンボルト協会による日独学術情報発信の一環として、本協会主催の講演会や討論会などを、オンラインで開催することも念頭に置き積極的に行っていく。
 - ・2022 年 9 月 17 日（土）に Covid-19 シリーズ第 7 回『Globalism、Nationalism そして Localism』をオンラインで開催予定。
 - ・日本フンボルト協会主催の講演会や討論会についての情報を、要請に応じて、他のアルムニクラブや学会などに提供し、フンボルト協会の活動に関する発信に努める。
4. 支部活動について
 - ・新型コロナの収束状況を注視しながら、DAAD 友の会と連携した企画を検討するなど支部活動の一層の活性化を進める体制を、協会本部としてもサポートしながら構築していく
5. 協会会員について
 - ・日本フンボルト協会の会員数を増やすための方策のひとつとして、昨年度に引き続き、シーボルト賞など、日独学術交流に関する各賞受賞者に賛助会員としての入会を要請するなど、新会員の獲得を図る。
6. 協会財政安定化について
 - ・会費未納会員に対する対応策を引き続き検討すると同時に、各方面に本協会活動への理解と支援を求めていく。
7. 第 5 回日独共同研究奨学金制度
 - ・広く本奨学金制度を周知することにより、申請数の増加に努めると同時に、優秀なプロジェクトへの同奨学金制度によるドイツ研究者との共同研究の助成を推進する。
8. Humboldt-Kolloquim について
 - ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2022 年 11 月にオンライン方式で開催されることになった Humboldt-Kolloquim について、本協会としても、フンボルト財団を引き続き支援していく。

以上

日本フンボルト協会 2021年度予算・決算 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(収入の部)				
	項 目	2021年度予算	2021年度決算	
1	年会費	2,400,000	2,576,000	644口 (2020年度9口、2021年度622口、2022年度13口)
2	利息	10	17	普通預金利子
3	寄付	0	0	
4	フンボルト財団支援金	0	0	
5	総会懇親会参加費	0	0	
6	収入小計	2,400,010	2,576,017	
7	前年度繰越金	1,655,601	1,655,601	
8	収入計	4,055,611	4,231,618	
(支出の部)				
	項 目	2021年度予算	2021年度決算	
9	総会・説明会等開催費	100,000	0	
10	支部運営助成費	500,000	434,000	関東甲信越支部(200,000)、関西支部(200,000)、中部支部(14,000)、北海道支部(20,000)
11	会合費	20,000	5,960	
12	通信費	200,000	279,879	会費請求・ニューズレターの送付等、会員への発送、電話使用料(友の会と折半) 17,829
13	印刷・複写費	120,000	109,623	会報印刷など
14	事務所施設利用費	50,000	43,758	(以下DAAD友の会と折半) 電気代12,758、事務所清掃代27,500、ゴミ処理代3,500
15	事務用品費	50,000	104,041	うちZoom設定費25,795、マカフィー更新4,573、事務用品費73,673円
16	事務局人件費	1,400,000	1,381,382	事務局員への謝金、発送の手伝い要員の費用、交通費
17	振込手数料等	2,000	5,397	銀行振込手数料
18	予備費	100,000	80,000	Zoomオンライン講演会の謝金4人分
19	支出小計	2,542,000	2,444,040	
20	次年度繰越	1,513,611	1,787,578	
21	支出計	4,055,611	4,231,618	

(備考)

① 日本フンボルト協会寄附口座 預金額 770,803円

② 2011年度アルムニ賞賞金25,000ユーロ＝2,764,326円(利子を含む)は、ホームページと留学支援サイトの構築のためにあてられた。現在、残額が205,419円である。フンボルト財団の了承を得て、残額は、「ホームページ管理特別基金」の下におき、ホームページの維持管理のために使用する。

③ 会費納入会員数の推移 (2015) 797 / (2016) 698 / (2017) 635 / (2018) 632 / (2019) 615 / (2020) 574 / (2021) 626 / (2022) 14

2021年度監査報告書

日本フンボルト協会

理事長 伊藤 眞 殿

私は、日本フンボルト協会の監事として会則の定めるところに基づき、
本会の2021年4月1日より2022年3月31日に至る期間の会務
の執行および会計収支の状況につき監査を行いました。

監査の結果、上記の期間において会務が適切に執行されており、また関係
するすべての書類が収支と財産の状況を適正に示していることを確認
いたしました。

以上、ご報告いたします。

2022年 4 月 25 日

監事 芳賀 雅顯



監事 吉川 泰弘



日本フンボルト協会 2022年度予算案 (2022年4月1日～2023年3月31日) 2022年6月11日現在					
(収入の部)					
	項目	2021年度決算	2021年後決算の項目	2022年度の項目	2022年度予算
1	年会費	2,576,000	644口	年会費	2,400,000
2	利息	17	普通預金利子	利息	20
3	寄付	0		寄付	1,000,000
4	フンボルト財団支援金	0		フンボルト財団支援金	0
5	総会懇親会参加費	0		総会懇親会参加費	0
6	収入小計	2,576,017		収入小計	3,400,020
7	前年度繰越金	1,655,601		前年度繰越金	1,787,578
8	収入計	4,231,618		収入計	5,187,598
(支出の部)					
	項目	2021年度決算	2021年度使用明細	2022年度の項目	2022年度予算
9	総会・説明会等開催費	0		総会・説明会等開催費	100,000
10	支部運営助成費	434,000	関東甲信越支部(200,000)、関西支部(200,000)、中部支部(14,000)、北海道支部(20,000)	支部運営助成費	570,000
11	会合費	5,960		会合費	20,000
12				シンポジウム、講演会等謝礼(新)	200,000
13	通信費	279,879	会費請求・ニューズレターの送付等、会員への発送、電話使用料(友の会と折半)17,829	通信費	350,000
14	印刷・複写費	109,623	会報印刷など	印刷・複写費	120,000
15	事務所施設利用費	43,758	(以下DAAD友の会と折半) 電気代12,758、事務所清掃代27,500、ゴミ処理代3,500	事務所施設利用費	50,000
16	事務用品費	104,041	うちZoom設定費25,795、マカフィー更新4,573、事務用品費73,673円	事務経費(名称変更)	100,000
17	事務局人件費	1,381,382	事務局員への謝金、発送の手伝い要員の費用、交通費	事務局人件費	1,400,000
18	振込手数料等	5,397	銀行振込手数料	振込手数料等	5,000
19	予備費	80,000	講演会の謝金4人分	予備費	100,000
20				寄付金払い出し(新) (4月14日に寄附口座に振替済)	1,000,000
21	支出小計	2,444,040		支出小計	4,015,000
22	次年度繰越	1,787,578		次年度繰越	1,172,598
23	支出計	4,231,618		支出計	5,187,598
(備考)					
① 日本フンボルト協会寄附口座 預金額 1,770,803円 (2022年6月11日現在)					
② 2011年度アルムニ賞賞金25,000ユーロ=2,764,326円(利子を含む)は、ホームページと留学支援サイトの構築のためにあてられた。現在、残額が205,419円である。フンボルト財団の了承を得て、残額は、「ホームページ管理特別基金」の下におき、ホームページの維持管理のために使用する。					
③ 会費納入会員数の推移 (2015) 797 / (2016) 698 / (2017) 635 / (2018) 632 / (2019) 615 / (2020) 574 / (2021) 626 / (2022) 確認中					

2022 年度日独共同研究奨学金採択結果

(2022.06.11)

1. 課 題 : 『完全既約性、幾何学的不変式論、ビルディングの理論 :
代数群の統一的な理解に向けて』

Vollständige Zerlegbarkeit, geometrische Invariantentheorie
und Theorie sphärischer Gebäude: ein allgemeiner Ansatz zur Darstellung
algebraischer Gruppen

助成対象者 : Falk Bannuscher, PhD (2021.10, Ruhr University Bochum)

申 請 者 : 内山 智博 会員 (創価大学国際教養学部准教授、数学 (代数学))

2. 課 題 : 『ハプト藻類の日本発形質転換技術による
炭酸カルシウム結晶細胞殻形成の分子機構の解明』

Kompetenzerwerb in Bezug auf die in Japan entwickelte genetische
Transformation von Haptophyten zur Aufklärung des molekularen Mechanismus
der CaCO_3 -Biominalisation bei kalzifizierenden Haptophyten

助成対象者 : Ekta Kumari (PhD, Postdoc, Fakultät Biologie, Technische Universität
Dresden, Biominalisation)

申 請 者 : 白岩 善博 会員 (筑波大学名誉教授、植物代謝生理学)

日独共同研究奨学金基金及び協会財政安定化基金の経過

(2022年06月11日現在)

《日独共同奨学金基金 口座》

収 入		支 出	
会員からの寄付 (2019年9月30日まで)	5,540,000円	2019年度2件分奨学金支給	1,000,000円
会員からの寄付 (2019年10月以降)	145,000円	印刷、事務用品(2019年度)	10,815円
外部の個人・企業からの寄付	4,840,000円	送金手数料	29,908円
利 息 (2020年8月まで)	113円	2020年度2件分奨学金支給	1,000,000円
利息(2021. 02. 22)	39円	印刷、事務用品(2020年度)	9,946円
利息(2021. 08. 23)	36円	送金手数料	880円
利息(2022. 02. 21)	33円	2021年度2件分奨学金支給	1,000,000円
		送金手数料	550円
		残 高	7,473,122円
合 計	10,525,221円	合 計	10,525,221円

《財政安定化基金 口座》

収 入	
会員からの寄付 (2019年9月30日まで)	2,000,000円
会員からの寄付 (2019年10月以降)	29,000円
利 息 (2020年8月まで)	15円
利息(2021. 02. 22)	9円
利息(2021. 08. 23)	9円
利息(2022. 02. 21)	9円
合 計	2,029,042円

(備考)

1. 寄付金振込手数料は、当初、日本フンボルト協会会計（予備費）から補填した。
寄付期間終了後に、奨学金基金から振込手数料を支出し、日本フンボルト協会（予備費）に返金した。
2. 2019年10月1日以降(募金締切以降) 会員から振り込まれた174,000円は、奨学金基金と財政安定化基金に、
5：1の割合で、それぞれ145,000円と29,000円を振り分けた。（2020年4月4日の常務理事会で承認）